

3年制における臨地実習の現況報告

○山藤賢¹⁾, 利光央²⁾

(¹⁾ 昭和医療技術専門学校²⁾ 美萩野臨床医学専門学校)

【目的】本年度の3年制部会において、臨地実習の課題についての報告、検討が行われた。講演者をはじめ、会場からも多数の質問、ディスカッションが行われ、関心の高さがうかがえた。その際には、講演者を中心とした報告であったため、3年制部会では、改めて全国の3年制学校にアンケートを取り、現在の状況をフィードバックすることにより各校の今後の教育に役立てていただくこととした。その一部を報告する。

【方法】3年制教育を行っている各校にアンケートを実施した。部会の時には、様々な問題が取り上げられ、講演者によっても多様な報告があったが、今回のアンケート内容に関しては、実習期間、実習費用に焦点をおいて実施した。

【結果】

アンケートは集計中であり、全てのデータが揃った状態にて学会時に報告させていただく。

【考察】

臨地実習検討委員会では以下のようなものが議題としてあがっていた

- 1) 実習項目の統一（施設間格差）
- 2) 実習期間の統一（大学、短大、専門）
- 3) 実習前試験の導入（協議会としての統一）
- 4) 臨床検査技術教育体制の確立（認定施設の選定）
- 5) 検査技術教育水準の設定（看護教育との整合性）
- 6) 実習費の問題
- 7) 臨地実習の標準化

この全てにおいて、議論をしているわけではないが、今後も協議会、各校にて、取り組んでいかなければならない問題は多々ある。

また3年制教育、4年制教育と、それぞれの立場や見解の違いなどもあると思われるが、将来を担う学生を教育するうえで、臨床検査技師として必要なことは何なのかということに主題を置いて方向性を合わせていく部分も今後は必要ではないかと考える。